



ふれあい

2015年4月
現在の会員数
男性 1,223名
女性 482名
合計 1,705名

2015年/4月
145号

題字 府中市長 高野律雄 書

公益社団法人府中市シルバー人材センター発行/府中市寿町3-2 ふれあい会館2F/TEL042-366-2322



第4回 ふれあい作品展



第4回 ふれあい作品展

- 目次
- 平成27年度事業計画のあらまし …… 2
- 役員と班長懇談会開催 …………… 3
- 第4回ふれあい作品展 …………… 3
- 生涯現役！輝く会員さん …………… 4
- 各地域のボランティア活動情報 …… 4
- 出張入会相談会(市役所) …………… 5
- 働く会員の職場訪問 …………… 5
- 安全推進大会 …………… 6
- 会員さんからの投稿 …………… 7
- お知らせ …………… 8

平成27年度事業計画のあらまし

1 基本方針

我が国の経済情勢は、平成26年4月からの消費税増税の影響もあり、個人消費の落ち込みは大きく、景気の回復はまだまだ厳しい状況にあります。当府中市シルバー人材センターの契約件数は、前年を若干上回りましたが、好転の様子が見えない状態にあり、会員に対する就業状況もいまだ厳しい状況となっております。

センターは、第2次長中期見直し計画を踏まえ、会員の就業機会を確保するとともに「自主・自立、共働・共助」の基本理念を再確認し、公益社団法人にふさわしい事業展開と会員の組織人としての資質及び意識の向上、法令を順守した適正就業を進め、その理念に基づいた活動を展開する組織体制の強化を図る必要があります。

又、適正な業務を受注し、安全な就業環境を確保しながら会員の自己管理責任の徹底と就業基

準を遵守し、事故の未然防止に努めてまいります。

さらに、適正な会計処理と将来を見据えた財政運営を計画的に実行し、ゆとりと豊かさ・潤いのある生活の実現と地域社会の支え手として、センターが果たす役割はますます重要になってまいります。今後のセンター運営は、ボランティア活動を広く展開し、地域貢献活動と会員の知識や経験を最大限に生かした就業を通じて、地域に信頼される活力ある地域社会づくりに寄与するとともに会員自らの生きがいと健康を実現するために全力を尽くして参ります。

2 事業実施計画

(1) 組織体制の充実強化

センターは、会員の自主的な組織であるという意識の向上を図り、センターの基本理念である「自主・自立、共働・共助」の一層の浸透と会員相互の理解を深め、組織体制の充実強化に努めます。

(2) 就業機会の開拓及び提供

就業機会の確保及び拡大を図るため、就業開拓専門員を継続して配置し、官公庁、企業、家庭等の要望に応えられる職群班の育成や情報収集に努め、就業機会の開拓を行うとともに、管理業務職場の適正なローテーション化により、公平な就業機会の確保に努めます。

(3) 普及啓発活動

センター事業の理念や仕組みを広く地域社会にアピールし、各界及び市民の理解と支援を得るため、さまざまな情報を提供し事業のPRに努めます。

(4) ボランティア活動

会員による社会貢献活動が活発に行われるよう支援するとともに地域ボランティア活動を広く展開し、地域に貢献する活動への理解と参加を促します。

(5) 相談及び調査研究

高齢者の就業に係る相談や各種資料の収集、調査を実施し、就業機会開拓の創出に努めます。

(6) 研修、講習の充実

発注者に高品質のサービスを提供するため、技能・技術等の研修

会を開催し、会員のスキルアップと意識の向上を図る研修・講習事業を実施します。

(7) 安全対策の推進

会員の安全就業の確保はすべてに優先するものであり、センター事業運営の重点課題として取り組む必要があります。就業中の事故や経路途中の事故を未然に防ぐため、専門知識を有する有識者からアドバイスを受け、日頃から会員自らが自己管理する責任や就業基準の遵守に努めるという安全と健康に対する意識を高め、心身の健康維持に関する指導を強化するよう必要な対策を講じます。

(8) 会員の増強

センターの趣旨、就業のあり方など事業への理解を深め、就業及び組織活動に積極的に参加できる会員の獲得に努めます。特に女性会員の組織率を高めるため、女性会員の入会を促進します。

平成27年 役員と班長懇談会開催

去る1月15日(木)平成27年役員・班長懇談会がホテルコンチネンタルで高野律雄府中市長をはじめ高野政男市議会議長、小山有彦都議会議員、遠田宗雄厚生委員長、比留間利蔵副議長を来賓にお迎えし、総勢70余名が一堂に会して開催されました。

来賓との懇談会では棟方会長の年頭挨拶に続いて高野律雄府中市長から当センターの高い技術力と豊富な経験、地道な努力で地域の安全と快適な生活が守られてきたことに対し謝辞がありました。さらに『昨年市制60周年を記念に「支え合おう」を基本理念に、「市民協働都市宣言」をしました。また61年目の今年は「やすらぎ・つながり・かがやき」を市制運営のテーマにしました。センターの基本理念と合致する内容でキーワードになると思います。

大宰府天満宮のご厚意で一千年の歴史のある紅白一對の梅を郷土の森に植樹することになりました。郷土の森が一層賑わってくださることを願っています。これからも

ご協力をお願いします。』との挨拶があり、比留間市議会議副議長の発声で乾杯が行われ、宴会に入り、市長の熱唱も披露されました。

続いての情報交換会は智田理事の司会で開始され、地域委員の活動報告では、地域懇談会の参加者を集めるのに、ご苦労されている様子が紹介され、人寄せに「出前寄席」を検討している、との発表もありました。ボランティア活動にも地域班長の努力で活発化しているとの報告がありました。一時間を越える熱心な発表が続きました。最後に松本副委員長から種々の手法で地域を活性化してゆく班長の活動に益々期待するとの挨拶で閉会しました。



第4回 ふれあい作品展

60歳以上の市民が発表する「ふれあい作品展」は第4回を迎え、2月20日(金)〜23日(月)まで、グリーンプラザ5階展示ホールで開催されました。

会場は各作品を引立たせる照明で、ゆつたりとした広さと落ち着いた雰囲気の中、大勢の方が訪れ鑑賞されていました。ソファでひと休みしながら観覧する姿も見受けられました。

今年の出展は62点で(会員37名、



市民25名)内容は絵画36点(油絵、水彩・水墨画の他、ちぎり絵、布絵、モザイク画、植物画等)、書道(書の他、刻字や流行歌の歌詞を絵と書で描いた作品等)9点、写真10点、工芸(人形やブリザードフラワー、盆石等)7点で、多岐にわたる表現技法の作品です。

また、今年から手作り小物班の作品コーナーも設けられ、多くの方が足を止められ人気でした。

興味を抱いた作品を写真に収める光景も多く見受けられ、中には、気に入った作品を購入したいと受付で相談する方もおられました。また販売はしておりません。また写真ブースではバックと花のコントラストに感動した方から「花が浮立って見えるのは撮影技術ですか、天候ですか?」「センターには写真同好会がありますか?」との質問もありました。

「凧絵18点」の作品は、武將絵の中にアンパンマンやポパイの絵があり、またお孫さんが大きな魚を釣り上げた写真など、ご家族の優しい愛情を感じさせる楽しい作品もありました。来場者は延べ443名で、盛況裏に終了しました。第5回「ふれあい作品展」は平成28年2月19日からの予定です。

生涯現役！輝く会員さん② シルバークのホームページと 広報「ふれあい」の先駆者 飯田 博さん

晴れた日には富士山が望める瀟洒なマンションにお住まいの飯田博さん(85歳)。書棚にはパソコン関係などの本がびっしり。実はシルバークのホームページは、飯田さんら「パソコン同好会」(1998年発足)の会員さんが立ち上げたもの。「シルバークの会員だけでつくったホームページは全国で府中市が初めて」とのことです。

同好会では都内近郊を訪ねる「遊行会」を主催。事前に下調べした見学会は好評で参加者も多く、NIT「光HOUSE新宿」での「PC研修」はパソコン職群が講師を務める生涯学習センターの講座につながったとのこと。同センターでは飯田さんも「Word&Excelの便利技」など工夫を凝らした手づくりのテキストを使って、メイン講師をされています。

活躍はパソコンに止まらず、以前は業者に委託していた広報紙「ふれあい」の版下作業を引き継ぎ、12年間に亘って編集や版下づくり

を務められました。

まさにシルバークの草分け的存在ともいえる飯田さんは朝鮮京城府(現ソウル市)で生まれ、中学生の時に帰国、海軍兵学校78期針尾分校(長崎市)に入校しましたが、わずか5か月で終戦を迎えました。戦後はNITを定年退職後、関連会社に勤め、47年に及ぶ勤務期間は日本が歩んだ戦後の歴史と重なります。

在職中に培ったノウハウだけでなく、先の書棚が物語るように、たゆまず学び続ける飯田さん。「検索すれば病気のこともなんでも調べられる。パソコンはシルバークの高齢者にこそ使って欲しい」とのメッセージをいただきました。



各地域のボランティア活動情報 野球少年たちとのボランティア活動(四谷地域)

四谷地域のボランティア活動は年2回行っており、昨年は11月15日に四谷小学校周辺、12月13日に四谷小学校周辺と第八中学校周辺の落ち葉拾いを行いました。

二度の落ち葉拾いには、四谷地域のセンター会員が多数参加され、二つの学校周辺の落ち葉や紙くず、空き缶が一掃され喜ばれました。

今回は、いつものボランティア清掃に加えて、地域社会に溶け込んだ活動を行うことができましたので、事例としてご報告いたします。

11月15日土曜日の朝、四谷小学校のグラウンドで練習をしていた四谷スワローズ6年生チーム(四谷小学童野球チーム)の監督や選手に、周辺で落ち葉集めをしていた地域委員の林崎さんが「頑張つてね!」と声を掛けたところ、暫くして同チームの監督、コーチ、選手全員が掃除用具も携え、自主的に学校周辺の清掃の手伝いをしてくれました。

手伝って頂いたのに残念ながら飲物をサービスすることもできませんでしたが、最後に参加者全員で集合写真を撮りました。

前回は、四谷小学校の学校便り

を通じて、校長先生からの「お礼のことば」を頂いたり、今回はこのボランティア清掃を学童野球チームの指導者や選手が自主的に手伝ってくれたり、私たちのボランティア活動が地域に認識された活動になってきたことあるのかなあと思っています。

「小さな出来事ではありますが、このように地域の方との交流が出来たのは本当に嬉しく、これからも地域に根ざしたボランティア活動を進めていきたい」との林崎地域委員の言葉が力強く感じられました。



「センター入会相談会」市役所で開催

「センター入会相談会」が1月26・27日の両日、市役所の市民談話室に出向き開催されました。

総務委員6名の方々が2名交代で応対にあたり、入会までの手順や職種、収入など入会希望者の質問に応じていました。相談者の中に、50代の方や障害者の方がいらっしゃいましたが、「センターの主旨は健康で働く意欲がある60歳以上の市民が対象ですので、ご理解の程」と担当者から説明されました。また、女性の相談者が例年より多く女性の働く関心の高さを感じます。オープンと共に絶え間なく相談者が訪れ、待たされる場面もある程の盛況裏に終了しました。

入会の相談会は毎月、「ふれあい会館」で行っております。

また、市役所（1月と9月頃）、商工まつり（8月）、シルバーフェア（10月）に出張入会相談をしておりますので、会員の皆様からお知り合いの方に入会をお薦めいただければと思います。



「働く会員の職場訪問」パソコン職群

「講師の皆さんがいていねいで分かりやすく教えて下さるので、教室にくるのが楽しかったです。またいろいろと受講したいです。」これは、生涯学習センター講座終了後のアンケートの一部です。パソコン職群は現在29名。そのうち7名は女性です。

グリーンプラザのパソコン教室では、受講者一人一人の要望に応えながら個人講習を続けています。初めてパソコンを習う方から、ワードやエクセル、ホームページの作成、タブレットの使い方など、習いにくる内容はいろいろあります。さらに6名の受講生で講習を行っている仲良しグループの「プラチナ」は、月2回の講習会をみなさんが毎回楽しみにしながら参加しています。2名で講習を行っている担当講師にも熱が入ります。

また生涯学習センターでは、パソコンに関するさまざまな講習会の講師として仕事を進めています。メイン講師1名とアシスタント講師2名が基本ですが、積極的に他の講師も参加しての生き生きとした講習会となっています。



先日は小学生4・5・6年生向けのプログラミング講座を行い満席の状態で、子どもたちは喜んで受講しておりました。

PC職群講師は受講者に喜んでもらえる講座にするために、講師としての教え方の技術はもちろんマナーや話し方などの研修もずっと続けており、年に3回の研修会も定期的に行われています。仕事を通して同じ講師仲間と喜びを分かち合えるとの事です。

第18回 安全推進大会開催 「認知症を知る」

1月22日(金)ふれあい会館において「認知症を知る」をテーマに講座が開かれ、50数名の方が参加されました。

現在、65歳以上の高齢者は全国平均25%で、府中市は30%を超える地域もあります。また、10年後は認知症患者が470万人に上ると予想され、関心の高い講座となりました。

澤村安全委員長から「安全委員会は常日頃、皆様の安全と健康について啓蒙活動を行っておりまして。」との開会挨拶に続き、小林センター副会長から高校時代に林麟博士(大脳生理学)の講演で聞いた「頭が悪いのは脳細胞の反射伝達が悪いだけで、その事で人を差別すべきでない。」と、本題に相応しいお話がありました。今日の講師は、村谷孝子さん(社会福祉協議会 権利擁護課 ソーシャルワーカー)です。「認知症を学び地域で支えよう」を趣旨に講座が始まりました。



上の支障が約半年以上継続している状態です。記憶・判断力・見当識(現在の日時や場所、人物が分からない)の障害が現れます。加齢の物忘れは、何かのきっかけで思い出せるので認知症ではありません。要因はアルツハイマーが約半数。他、脳血管支障や甲状腺疾患等が考えられます。認知症かな?と気付いたら早期受診が大事で、病状によっては治る事や、進行を抑えられる場合もあります。

お話の後、患者に接するDVD映像が流されました。お店で支払金に戸惑う姿、ゴミ出し日が理解出来ない、行先の自覚が無いなどの想定場面で、周りの人の理解と思いやりで円滑に行く事を実感しました。



受講後、各自が認知症サポーター「ささえ隊」の証であるオレンジリングをいただきました。府中市の「ささえ隊」は現在、8510人ですが、今日の受講で更に増えました。

認知症サポーター側としてのお話でしたが、いつサポートされる側に回るかも知れません。それぞれの立場から、認知症になっても安心して暮らせる町を目指す、意義ある講座でした。

四谷地域懇談会 出前寄席の開催



2月15日に四谷地域懇談会が開催されました。今回は通常の報告などに続いて、第二部として「東京都消費生活総合センター」が注意をよびかけている「悪徳商法や詐欺の手口とその対処方法」を話してくれる「出前寄席」がありました。出前寄席OB会のモストダストボーイズが「高齢者を襲う闇」を漫才で、明治大学落語研究会の紫紺草志い朝が「引つかかったわねー」を落語で、面白おかしくかつ分かりやすく話してくれました。



出席者の皆さんは大笑いであな
ずいたりして聞いていました。
出前寄席はセンターとしても開
催が珍しく他の地域の委員なども
見学に来ていました。

会員さんの投稿写真、絵画、書、俳句、川柳など



「浅間山の女王・山ゆり」
徳田豊彦さん 写真



「春の香り」
青柳奎吾さん 写真



「ねぶたの面」
棟方鷹揚さん モザイク画



「カワセミ」
吉田和三郎さん パソコン水彩



「やまぼうし、白い花に赤い虫」
坂本清身さん 写真



「神代植物公園の牡丹の花」
西隈邦彦さん 写真



「あの日を忘れない」2011年5月11日撮影
(宮城県仙台市荒浜地区)
服部美佐子さん 写真



「ブルーベリーケーキ」
鏡 陽次さん パソコン水彩



「北口本宮 富士浅間神社」
芝辻克己さん パソコン水彩

● 毎号会員の皆様からの投稿をお待ちしております。下記Eメールアドレスまたは事務局まで奮ってご応募ください。
fsc@fsc.or.jp

会員「澤村理事」 緑十字銅章を受賞



全日本交通安全協会は、多年にわたり交通活動に尽力し、拔群な功績等があった交通安全功労者、優良安全管理者及び優良運転者に対し、その功績に応じて、交通安全表彰章「緑十字金章」、「同銀章」、「同銅章」を贈り表彰しています。このたび、府中警察署からの推薦を受け、府中市シルバー人材センターの安全委員長の澤村一男理事がめでたく「緑十字銅章」を受賞し、表彰されました。

多摩川ボランティア清掃 5月24日(日)開催

恒例の府中市主催の「第42回多摩川清掃市民運動」開催に呼応した参加活動です。

日時

平成27年5月24日(日)

午前9時

場所

郷土の森公園の南側
総合体育館駐車場脇の
多摩川遊歩道

平成27年 第66回 定時総会の開催について

当センター定時総会を次の日程で開催します。

詳細につきましては、改めて通知いたします。

公益社団法人

府中市シルバー人材センター

第66回定時総会

日時

平成27年6月19日(金)午後1時

場所

府中の森芸術劇場
ふるさとホール

平成27年度主な行事予定

実施月 行事名

4月 地域懇談会

(実施期間4月～3月)

在会年数別会員研修(24日)

5月 多摩川ボランティア清掃(24日)

自転車競技大会(30日)

6月 地域班長会議(1日)

第66回定時総会(19日)

会員懇談会(26日)

7月 第1回安全推進大会(17日)

8月 商工まつり(7～9日)

9月 交通安全式典(7日)

財団安全推進大会(30日)

10月 府中市シルバー

人材センターフェア(21～22日)

けやき並木清掃ボランティア(23日)

在会年数別会員研修(26～27日)

11月 府中NPOボランティアまつり(21～

22日)

1月 役員班長合同懇談会(15日)

第2回安全推進大会(22日)

2月 第4回ふれあい作品展(19日～

22日)

編集後記

平成27年度6月総会に向けて事業計画のあらましが決まりました。1月15日に開かれた今年度の役員と班長懇談会の模様や2月20日から開催の「第4回ふれあい作品展」等27年度に向けた催しと生涯現役を貫く元気な会員さんの紹介、各地域のボランティア活動と工夫を凝らし会員の参加を促す地域懇談会などを紹介しています。

全面カラー化について

広報紙ふれあいを更に見易く、読み易くして、魅力のある広報紙とするために、これまでも編集の工夫をして参りました。

昨年実施した皆様へのアンケートでも、よく読んでいるが、更に魅力のあるものを期待するというご意見を頂きました。

今回の全面カラー化の特長を生かして、従来の裏表紙に集中させたカラーの取材写真等を記事に折り込んだ事と、投稿欄の拡大・充実を試みます。是非、皆様の多数の作品により、この企画が盛り上がりますます様にご協力をお願い申し上げます。